

「課題対応能力」を育むキャリア教育の展開

— 自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通して —

三原市立沼田東小学校 進藤 亮輔

研究の要約

本研究は、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通して、「課題対応能力」を育むキャリア教育の展開について考察したものである。既存の地域教材をキャリア教育の視点で見直し、学習活動の改善を図った。具体的には、児童にとって必要感のある地域教材との出会いにより、児童自らが地域教材の課題を発見し、解決していく単元構成とした。そして、単元を通して、自己との対話を促す振り返りシートを活用しながら、探究的な活動を振り返ることができるようにした。この振り返りシートによって、児童自らが地域に対する課題を見付け、必要な情報を収集して自分の考えを深めながら課題を解決し、自分らしい生き方を考えることができた。これらのことから、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を行うことは、「課題対応能力」を育む上で有効であるといえる。

キーワード：課題対応能力 自己との対話 振り返りシート 地域教材

I 主題設定の理由

小学校キャリア教育の手引き<改訂版>（平成23年、以下「手引き」とする。）では、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」の一つである「課題対応能力」を、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し解決することができる力と示している。

所属校における第6学年児童のキャリア教育アンケートの結果では、「課題対応能力」のポイントは3.3と最も低く、その中でも、分からないことやもっと知りたいことがある時に、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりすることに課題があることが分かった。

所属校ではこれまで、キャリア教育の一環として、地域教材の活用を学校教育全体計画に位置付け取り組んできた。しかし、ゲストティーチャー（以下、GTとする。）とは一単位時間の授業に関わる連携に留まり、目指す児童の姿の共有は不十分で、単元を通して地域教材を有効に活用することができていなかった。

藤田晃之（2014）は、教育活動全体を通じて、今あるキャリア教育の断片を見いだし活用することが、実践のポイントであると述べている。

そこで、第6学年総合的な学習の時間「地域に生

きる～やっさ踊りの素晴らしさを調べよう～」の単元において、地域教材を活用した単元構成の工夫を行うこととする。本単元において、既存の地域教材を題材とし、キャリア教育の視点から児童に調べさせる場を設定する。そして、児童が課題意識をもってGTから地域への思いや願いを聞く中で、自分に必要な情報を収集し、分析することができるようにする。その際、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年、以下「中教審答申」とする。）に示されている一人でじっくりと自己の中で対話することを促すように振り返りシートを活用していく。これらの活動を行う中で、「課題対応能力」が育まれると考える。

このように、既存の地域教材をキャリア教育の視点で見直した学習活動の改善により、「課題対応能力」を育むキャリア教育の展開に汎用性があると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 所属校で育成したい能力や態度について

(1) 所属校で育成したい能力や態度とは

「手引き」では、自らの力で生き方を選択してい

くことができるような必要な能力や態度を身に付けることがキャリアの形成において重要であると示している。キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つの能力によって構成されると示している。所属校の児童の実態を把握するため、第6学年の児童53人にアンケートを実施した。アンケートの質問項目は、「手引き」の「キャリア教育アンケートの一例」を基に、①から⑫の質問項目を4段階尺度法で行った。アンケートの質問項目と「基礎的・汎用的能力」の関係、所属校第6学年児童のキャリア教育アンケートの結果を図1に示す。アンケートの結果から、「課題対応能力」における要素の一つである「情報の理解・選択・処理等」の項目で「いつもしている」と回答した児童の割合が最も低く、30.2%であった。

広島県教育資料（平成29年）では、「『課題発見・解決学習』とは、児童生徒が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習である。」¹⁾と示している。当該児童の平成28年度「基礎・基本」定着状況調査では、「課題発見・解決学習」に関する設問領域「情報の処理」の設問内容「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の肯定的評価が50.9%と、最も低い数値だった。広島県においても、この項目の肯定的評価が最も低く、広島県全体の課題として考えられる。

これらのことから、所属校で育成したい能力や態度とは、探究的な活動の中で、児童が自ら課題を見

付け、必要な情報を収集して課題を解決することができる「課題対応能力」とする。

(2) 「課題対応能力」を育むために

「課題発見・解決学習」における探究的な活動と、図1に示した「課題対応能力」における要素の関連を稿者がまとめたものを表1に示す。

表1 「課題発見・解決学習」における探究的な活動と「課題対応能力」における要素の関連⁽¹⁾

探究的な活動		「課題対応能力」における要素
課題の設定	互いの願いや疑問を共有して、実現や解消に向けて問題となっている課題を見いだす活動	課題発見 計画立案
情報の収集	既習の知識や技能を活用し、体験を通じた気付きや情報を蓄積する活動	情報の理解・ 選択・処理等
整理・分析	蓄積した情報を整理・分析して、思考する活動	情報の理解・ 選択・処理等
まとめ・創造・表現	考えをまとめ、課題の解決策を創造し、他者に伝える活動	原因の追究 本質の理解
実行	課題の解決策を実施する活動	実行力
振り返り	新たな課題解決の挑戦へとつながる活動	評価・改善

「手引き」では、総合的な学習の時間におけるキャリア教育との関連として、社会の一員として何をすべきか考えられるような探究的な活動を取り入れること等を示している。また、単元構成を進める上でのポイントとして、自分を見つめる機会を学習の中に取り入れ、生き生きと活躍している人の思いや生き方・姿勢から多くを学ぶことができる出会いや学びの場を工夫することを挙げている。

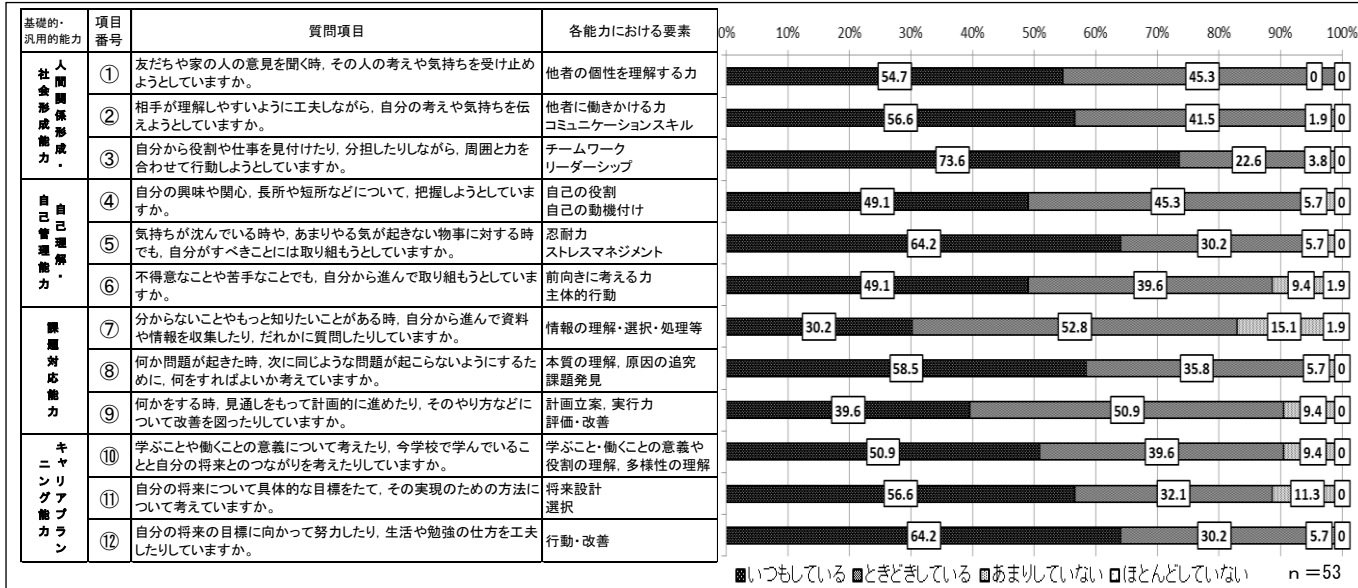


図1 所属校第6学年児童のキャリア教育アンケートの結果（事前）

金山憲正（2017）は、問題というものは、自らの中に芽生え、醸成してこそ問題なのであって、この意味において、問題意識の醸成は、自己との対話があつて初めてなされるものと述べている。さらに、どの場面でどんな記録をとらせるかが問題となるとも述べている。

これらのことから、「課題対応能力」を育むために、探究的な活動の中で、児童自らが課題を見つけ、どのように解決していくか自分自身と向き合つてじっくり考えることが必要であると考え。そこで、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、自分の考えを学習記録として残していく。

本研究では、「社会の一員として、自分らしい生き方を考えることができるようにする」というキャリア教育の視点をもって、探究的な活動の中で、「課題対応能力」を育んでいくこととする。

2 自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫について

(1) 自己との対話を促す振り返りシート

ア 自己との対話とは

中原淳・長岡健（2009）は、対話とは、共有可能なテーマのもとで聞き手と話し手で担われる創造的なコミュニケーション行為であると述べている。しかし、「中教審答申」では、学校内において他の児童生徒と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと対話すること、先人の考え等と文献で対話することを含め、対話を広く捉えている。湯峯裕（2017）は、対話による交流によって、他者を通して自己が分かり、対話は単なる情報の伝達ではなく自己理解だと述べている。また、北俊夫（2017）は、個人内対話は自分の中で営まれるもう一つの対話であり、より確かな「自己の確立」を目指していると述べている。

これらのことから、本研究では、自己との対話とは、友だちと話し合うだけでなく地域教材と関わる中で、自分自身と向き合つて考えることだと捉える。自己と対話することで、自分自身を理解することにつながり、自分の考えを深めていくことができると考える。

イ 自己との対話を促すとは

宮崎妙子（2011）は、振り返りという対話の場を設定することで、自己との対話を促すことができると述べている。

「中教審答申」では、振り返りとは、自らの学び

を意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚し、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現したりする学習活動だと示している。

これらのことから、自己との対話を促すとは、探究的な活動の中に振り返りの時間を設定し、これまでの学習や自分の考えを言語で表現させることである。それにより、自己の変容に気づき、自分の考えを深めることができると考える。

ウ 自己との対話を促す振り返りシートとは

「手引き」では、キャリア教育における児童の学習状況の評価方法の一つとして、学習活動の過程や成果等の記録を計画的に集積したポートフォリオを示している。

鈴木敏恵（2002）は、ポートフォリオによる自己との対話により、自分の心の姿勢や変化を客観的に評価することができると述べている。また、堀哲夫（2013）は、一枚ポートフォリオ評価表によって、学習の過程や変容が明確になり、学習者の資質・能力を育成することができると述べている⁽²⁾。この一枚ポートフォリオ評価表とは、堀が開発した一枚のシートの中に、教師のねらいとする学習の成果を学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを児童に自己評価させるものである。

これらのことから、自己との対話を促す振り返りシートとは、学習活動を振り返ったり、自分の考えの変容に気付いたりすることができるシートだと考える。振り返りシートの視点を表2に示す。この視点に基づき、振り返りシートを活用する。

表2 振り返りシートの視点

視点⑦	単元を通して、「課題対応能力」の視点で、探究的な活動を振り返らせる。
視点④	学習前後を振り返り、自己の変容に気づき、自分の考えを深めさせる。

(2) 地域教材を活用した単元構成の工夫

ア 地域教材とは

小島宏（1995）は、地域を「教室・先生・教材・家族・世界への入り口」の視点で活用する必要性を述べている。また、佐藤晴雄（2000）は、地域の教育資源として、①人材、②物資、③施設・場、④活動・営為、⑤情報・知恵に具体化している。その中で、人材とは、支援を通して学校教育に貢献可能な保護者・住民をはじめとする人々のこと、物資とは、教材化の対象として活用可能な地域特有の文化財や自然の営みのことだと述べている。

これらのことから、地域教材とは、地域に住んでいる人、つまりG T（地域人材）や地域の文化財（地域素材）のことだと捉える。

イ 地域教材を活用した単元構成の工夫とは

秋沢富五郎・原昇（1987）は、地域教材の有用性として、子供の学習に対する興味・関心・意欲を高めたり、問題解決に向けて主体的に学習に取り組んだりすることができることを述べている。

生田孝至（2000）は、学校の子供たちが、地域の行事に取り組むことは、地域の活性化やその活動に対する子供の興味・関心の高揚、伝統行事の伝承に大いに意味のあることだと述べている。また、地域人材の活用は、知識や技術を伝承するという役割だけでなく、子供に地域の文化や技術と、その文化や技術を担ってきた人々への敬愛と尊敬の気持ちを育む役割も担っていると述べている。

また、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」（平成 28 年）では、地域を題材として、「地域のためにこんなことをしたい」という社会参画意識を醸成することはキャリア教育としても重要であると示している。宮田延実（2017）は、地域の愛着を深めるキャリア教育は、キャリア形成を高める効果があると述べている。

さらに、藤田（2014）は、全ての教育活動を通じたキャリア教育の実践において最も大切なことは、それぞれの教育活動の中にすでにあるキャリア教育の要素、つまり「キャリア教育の断片」を見いだすことだと述べている。佐々木敬朗（2017）は、キャリア教育の「断片」をつないで、体系的・系統的な指導に組み立てていく際に重要なこととして、子供たちに特に身に付けさせたい力を判断し優先順位を付けて、単元や題材を焦点化することを挙げている。

これらのことから、本研究では、地域教材を活用した単元構成の工夫として、地域とキャリア教育をつないで単元を構成していく。具体的には、やっさ踊りを題材として、「自分らしい生き方を考える」というキャリア教育の視点で単元を構成する。まず、児童の心を揺さぶり、生き方に関しての意識を変容させるようなG Tとの出会いを設定する。次に、やっさ踊りへの関わり方を児童に考えさせる学びの場を設定する。地域教材の活用の視点を表 3 に示す。

表 3 地域教材の活用の視点

視点①	G Tとの出会い	授業のねらいやG Tの役割等について、G Tとの共通理解を図る。
視点②	学びの場	自分たちが調べた情報やG Tからの情報を基に、関わり方を考えさせる。
視点③		児童にとって必要感のある出会いにする。

このように、G Tとの出会いや学びの場の工夫を通して、「やっさ踊りにどのように関わるか」という単元を通した課題に対する「課題対応能力」を育むとともに、地域教材への関わり方から、自分らしい生き方を考えていくことにつなげていく。

図 2 は、探究的な活動において「課題対応能力」を育むために、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を表した本研究における構想図である。

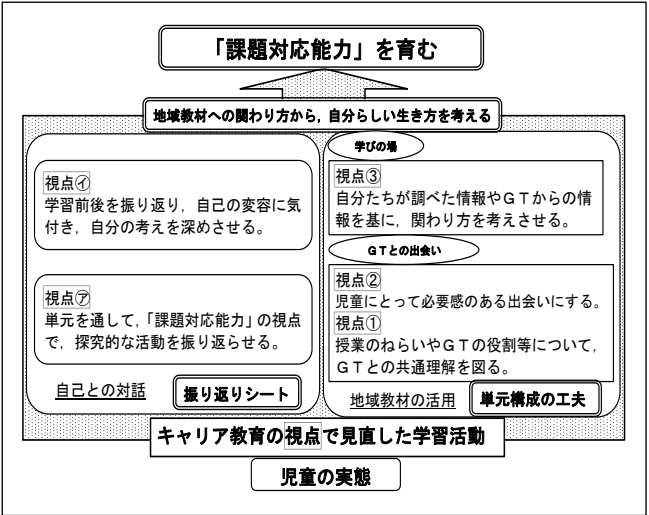


図 2 本研究における構想図

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

探究的な活動の中で、振り返りシートによる自己との対話を促し、地域教材を活用した単元構成の工夫をすれば、児童が自ら地域に対する課題を見付け、必要な情報を収集して課題を解決することができ、「課題対応能力」を育むことができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表 4 に示す。

表 4 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
視点 A	探究的な活動の中で、振り返りシートにより、自己との対話が促されたか。	振り返りシート・ワークシートによる自己評価及び記述内容
視点 B	地域教材を活用した単元構成の工夫を通して、児童が自ら課題を見付け、必要な情報を収集し課題を解決することができたか。	振り返りシート・ワークシートによる自己評価及び記述内容、G Tへの事後アンケート
視点 C	「課題対応能力」は育まれたか。	キャリア教育アンケート

IV 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 平成29年6月21日～平成29年6月29日
- 対 象 所属校第6学年（2学級53人）
- 単元名 地域に生きる～やっさ踊りの素晴らしさを調べよう～

2 研究授業の概要

総合的な学習の時間において、地域教材のやっさ踊りについての「課題発見・解決学習」を行った。

やっさ踊りの歴史や踊り方等について調べたことを基に児童に課題意識をもたせた上で、GTから話を聞かせ、必要な情報を収集させた。そして、自分たちが調べた情報やGTから得た情報を基に、やっさ踊りにどのように関わっていくかという新たな課題へとつなげていく学習を展開した。その際、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、探究的な活動ごとに自己評価や文章で学習を振り返ったり、学習前と学習後の地域に対する自分の考えを書いたりさせた。本研究における授業の概要を図3に、実際に児童が記入した振り返りシートを図4に示す。

	探究的な活動	主な学習内容
つかむ 5	「やっさ踊り」って何だろう？ 【情報の収集1】	①三原に伝わる祭りについて知る。振① ②やっさ踊りを体験する。 ③やっさ踊りのイメージマップをかく。 ④学級でやっさ踊りのよさと問題点を捉える。
	【課題の設定1】	⑤学級としてのやっさ踊りのよさと問題点をまとめ、学習計画を立てる。
追究する 9	「やっさ踊り」の素晴らしさを調べよう 【情報の収集2】	⑥～⑨インターネットや書籍を活用して、やっさ踊りに関する情報を収集する。（やっさ踊りの歴史・踊り方等について調べる）
	【整理・分析1】 【課題の設定2】	【検証授業①】6月21日（水） ⑩調べたことを整理し、GTへ聞きたいことをまとめる。振②
	【情報の収集3】	【検証授業②】6月23日（金） ⑪GTとの交流から、やっさ踊りの実態を知り、やっさ踊りへの思いや願いを感じる。振③
	【整理・分析2】	【検証授業③】6月29日（木） ⑫GTからの情報を整理し、やっさ踊りのよさと問題点を話し合う。振④
広げる 12	【課題の設定3】	⑬GTの思い等を受けた手紙を書く。 ⑭やっさ踊りを保存するための方法について、学習課題を設定する。
	「やっさ踊り」の素晴らしさを伝えよう 【情報の収集4】	⑮～⑰自分たちの計画を基に、めあてをもって調べる。（インターネット、インタビュー）
	【整理・分析3】	⑱調べたことを整理し、伝えたいことを考える。
	【まとめ・創造・表現】	⑲～⑳班ごとに考えをまとめ、発表に向けて準備する。振⑤
	【実 行】 【振り返り】	⑳プレゼンのリハーサルをする。 ㉑プレゼンを行う。 ㉒振り返りシートを読み直し、地域への思いや願いをまとめる。振⑥振⑦

総合的な学習の時間 学習の足あと

地域に生きる
～やっさ踊りの素晴らしさを調べよう～

(三原市観光課中より)
やっさ祭り 平成29年8月11日（金）～13日（日）
子どもやっさ 平成29年8月11日（金）
6年 組 番

氏名

学習活動を振り返らせ、自己との対話を促し、地域教材に対する自分らしい生き方を考えさせる

未来への とびら

学習後に提示する

視点①

振⑦ 学習前と学習後に書いた内容を比べて、あなたが気付いたこと・感じたことなどを書きましょう。

学習前では、三原の伝統、三原だけの踊りだと思っていた。だが、自分も続けられるように自分も参加してみたいと思うようになった。

視点②

振① 【学習前】あなたにとって、やっさ踊りとは？

三原の伝統、三原だけの踊り
踊ってもみてもいい気持ちにな

振⑥ 【学習後】あなたにとって、やっさ踊りとは？

やっさ踊りは三原の大切な宝物なので、これからも続けていけるように自分も参加して自分達も楽しみたい。

やっさ踊りの学習を終えて
〆先生からのメッセージ
〆家族からのメッセージ

保護者からもコメントをもらう

視点③

振② やっさ踊りに関して、GTに聞きたいことを書きましょう

やっさ踊りの歴史や経緯、所、おもしろいところ、いつから始めたのか、聞きたいこと、おもしろいところ、聞きたいこと、おもしろいところ、聞きたいこと

振③ GTからのお話を聞くときに、気づいたことを書きましょう

知りたかったことが知れた！
大切なことをプリントにまとめたい！
話を聞いてみたい！
おもしろいところ、聞きたいこと、おもしろいところ、聞きたいこと

視点④

振④ GTのお話を聞いて、班でまとめたので、意見を述べたいことを書きましょう

〆班では、三原の歴史や文化が、あるということ、問題点は受け止めて、考えていくこと、かかった、おもしろいところ、聞きたいこと、おもしろいところ、聞きたいこと

視点⑤

振⑤ 自分たちの考えをまとめたので、GTに伝えたいことを書きましょう

やっさ踊りを学んで、自分達も伝えたいことを伝えたい！
〆自分達の考えをまとめたので、GTに伝えたいことを伝えたい！
〆自分達の考えをまとめたので、GTに伝えたいことを伝えたい！

視点⑥

振⑥ GTのお話を聞いて、班でまとめたので、意見を述べたいことを書きましょう

〆自分達の考えをまとめたので、GTに伝えたいことを伝えたい！
〆自分達の考えをまとめたので、GTに伝えたいことを伝えたい！
〆自分達の考えをまとめたので、GTに伝えたいことを伝えたい！

図3 本研究における授業の概要

図4 振り返りシート ※二つ折りにして使用（上：表面、下：裏面）

V 研究授業の分析と考察

1 探究的な活動の中で、振り返りシートにより、自己との対話が促されたか

(1) 探究的な活動を振り返らせることができたか

自分自身と向き合って考えることについての自己評価を図5に示す。

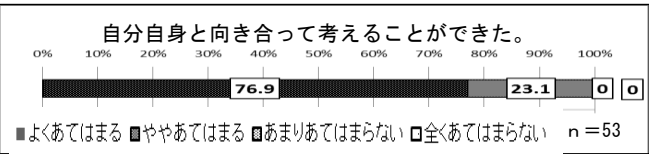


図5 自分自身と向き合って考えることについての自己評価

自己評価では、76.9%の児童がよくあてはまると回答し、肯定的な評価も100%であった。これは、地域教材が児童にとって身近なものであり、主体的に学習に取り組むことができたためだと考える。

次に、単元を通しての探究的な活動における振り返りシートの自己評価を図6に示す。

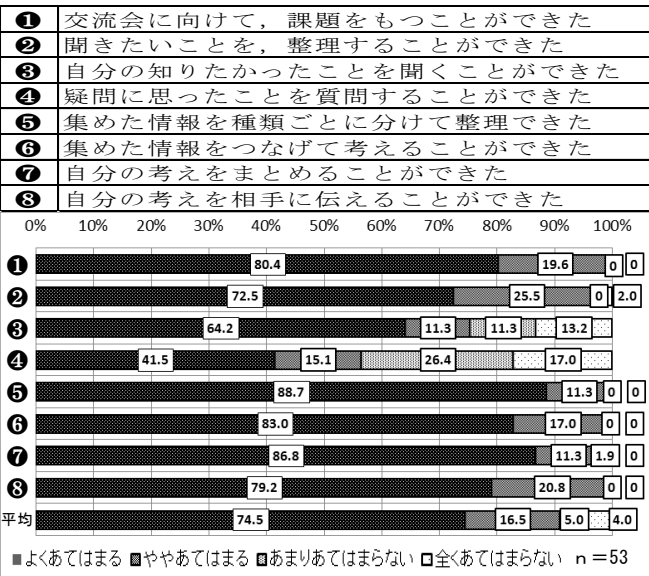


図6 振り返りシートの自己評価

この結果から、肯定的な評価は平均91.0%と高く、それぞれの探究的な活動を肯定的に振り返ることができたと考える。評価が低かった項目③④において、否定的な回答をした児童に聞いてみると、「直接ではないが、聞きたいことは含まれていた。」と答えた。これは、設問の「聞く」ということがG Tから直接聞くことと捉えていたためだと考える。設問内容を「自分の知りたかったことをG Tの話から

聞くことができた。」とする必要があったと考える。

これらのことから、授業に振り返りの時間を設定し、振り返りシートに書かせることで、自分自身と向き合ってしっかり考えさせることができ、探究的な活動を振り返らせることができたと考える。

(2) 学習前後を振り返り、地域教材に対する自己の変容に気付き、自分の考えを深めることができたか

学習前・中・後に、「あなたにとってのやっさ踊りとは」という地域に対する思いについて考えさせた。その中で、地域教材の伝承に関わる記述をした児童の割合を図7に示す。

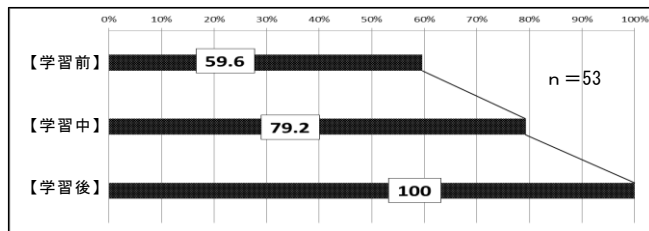


図7 地域教材の伝承に関わる記述をした児童の割合

学習が進むにつれて、「やっさ踊りを残していきたい。」という地域教材の伝承に関わる記述内容が見られた児童の割合が高くなった。これは、始めはやっさ踊りの踊り方そのものに対する自分の考えだったものが、歴史を調べたりG Tから話を聞いたりする中で、やっさ踊りの伝承へと地域に対する自分の考えが広がっていったためだと考える。

学習後のやっさ踊りに対する変容に関わる各段階の判断基準と人数を表5に、段階Ⅲの児童の記述内容の変容を表6に示す。

表5 各段階の判断基準と人数

段階	判断基準	人数(人)
Ⅲ	地域教材に対する理解は深まり、地域での活動の在り方まで考えている。	20
Ⅱ	地域教材に対する理解は深まっているが、地域での活動の在り方までは考えていない。	33
Ⅰ	地域教材に対する理解が深まっていない。	0

表6 段階Ⅲの児童の記述内容の変容

段階	記述内容
Ⅲ	学習前 やっさ踊りとは、元気が出る楽しい踊りであり、身近にある踊りだと思う。
	学習後 最初はやっさ踊りは知っていても自分には関係ないと思っていたけど、今は前よりも身近になってつなげていこうと思っている。

このように、やっさ踊りのよさと問題点を踏まえた上で、自分らしいやっさ踊りへの関わり方を考えていた。これは、振り返りシートで学習前後の自分の考えを比較させたことで、自分の心の変化を客観的に振り返ることができたためだと考える。

これらのことから、一枚の振り返りシートにより、自分自身と向き合って考える自己との対話が促され、学習活動を振り返ったり、自分の考えの変容に気付く、自分の考えを深めたりすることができたと考える。

2 地域教材を活用した単元構成の工夫を通して、児童が自ら課題を見付け、必要な情報を収集し課題を解決することができたか

(1) 児童の心を揺さぶり、生き方に関しての意識を変容させるG Tとの出会いになっていたか

ア 授業のねらいやG Tの役割等について、G Tとの共通理解は図られたか

G Tと事前に一単位時間の学習展開だけでなく、キャリア教育全体計画や学習指導案を基にして学校として目指す児童の姿やG Tの位置付けを共有化した。そして、G Tに児童の質問内容ややっさ踊りへの思いを伝え、話していただきたい内容を連携した。G Tへの事後アンケートの一部を表7に示す。

表7 G Tへの事後アンケートの一部

【質問】事前の打ち合わせはどうだったでしょうか。	
とてもよい	ほぼよい あまり良くない 悪い
【G Tからのコメント】	事前に子供たちの思いを伝えてもらっていたので、話をしほりやすかった。

このことから、目指す児童の姿を共有し、全体計画や単元計画を基にした連携を行うことで、授業のねらいやG Tの役割等について、G Tとの共通理解は図られたと考える。

イ 児童にとって必要感のある出会いになっていたか

G Tとの交流会に向けて、課題設定についての自己評価とG Tへの質問内容を図8に示す。

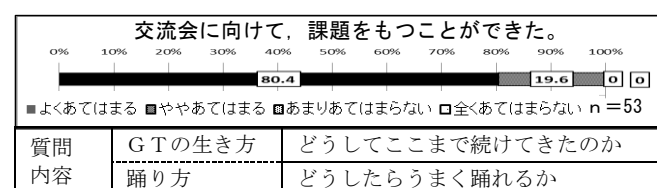


図8 課題設定についての自己評価とG Tへの質問内容

このようなG Tの生き方や踊り方について課題

意識をもった上で、G Tとの交流会を行った。実際にG Tからやっさ踊りへの思いや願いを聞くことで、学習後には「やっさ踊りのことを詳しく知ることができた。」「本当の問題点はやっさ踊りがなくなることだと思った。」等の記述が見られた。課題意識をもちG Tと交流することで、やっさ踊りに対する意識を変容させることにつながり、児童にとって必要感のある出会いになっていたと考える。

前述ア、イのことから、G Tと事前に児童や学習に関わる連携を取り交流することで、児童が今まで知らなかった地域の問題点を学ぶことのできる必要感のある出会いになっていたと考える。

(2) 自分たちが調べた情報やG Tから得た情報を基に関わり方を考えることができたか

G Tとの授業の後、自分たちが調べた情報やG Tから得た情報を基に、やっさ踊りのよさと問題点について考えさせた。そのやっさ踊りのよさと問題点について学年全体でまとめた記述内容を表8に、児童の記述内容を表9に示す。

表8 やっさ踊りのよさと問題点の記述内容

	よさ	問題点
学習前	楽しい・笑顔になる・三原の伝統	疲れる・難しい
学習後	達成感を味わえる・三原だけの踊り・誇り・楽しい・伝統	受け継ぐ人(若い人)が減っている・なくなるかもしれない・疲れる

表9 児童の記述内容

A児	G Tの話を聞いて、やっさ踊りがなくなるかもという気持ちの変化が大きい。やっさ踊りの存在は前より大きくなった。
B児	G Tの話を聞いて、ただ踊りたいだけでなく、もっと盛り上げたいに変わった。
C児	学習前は手が疲れるのが問題だと思っていたけど、G Tの話や班活動で本当の問題点はやっさ踊りがなくなることだと思った。

このように、学習を通して、やっさ踊りの新しい価値や知らなかった問題点に気付く、「やっさ踊りにどのように関わるか」という新たな課題を自ら見付けることができた。これは、G Tの生き方に触れ、G Tの思いや願いを感じたためだと考える。

新たな課題について班ごとに話し合った後にまとめた、やっさ踊りへの関わり方を表10に示す。

表10 やっさ踊りへの関わり方

関わり方	関わり方の内容
直接的な関わり方	児童朝会で踊る・やっさ祭りに参加する 友だちを誘う・楽しそうに踊る
間接的な関わり方	パンフレット(チラシ)を作る PR動画を作る・やっさだるマンを増やす

このように、新たな課題の解決策を班で話し合う中で、直接的・間接的にやっさ踊りにどのように関わっていくかを考えていた。このことから、自分らしい関わり方を考えることができたと考える。

これらのことから、児童にとって必要感のあるGTとの交流を行ったり、様々な情報を整理・分析したりすることで、児童自らが課題を見付け必要な情報を収集し課題を解決することができたと考える。

3 「課題対応能力」は育まれたか

「課題対応能力」が育まれたかを検証するために、キャリア教育アンケートを事前と事後に実施し、各能力を構成する要素に係る質問項目の平均値と、t検定の結果について図9に示す。

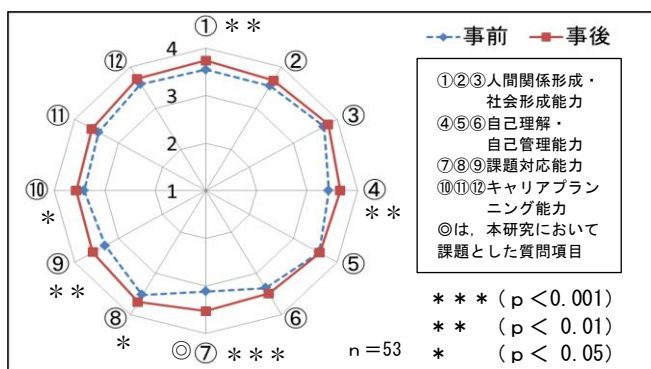


図9 キャリア教育アンケート結果（事前・事後）

この結果から、「課題対応能力」に係る質問項目⑦⑧⑨の平均値はいずれも上昇している。「課題対応能力」に係る質問項目⑦は（ $p < 0.001$ ），⑧は（ $p < 0.05$ ），⑨は（ $p < 0.01$ ）の有意な差が見られた。これは、前述の振り返りシートによって、単元を通して「課題対応能力」の視点で学習を振り返ることができたためだと考える。最も差が見られた質問項目⑦の事前・事後のアンケート結果を図10に示す。

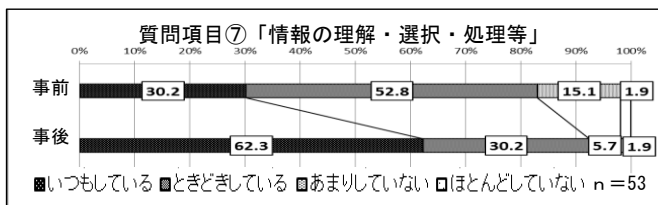


図10 質問項目⑦のアンケート結果（事前・事後）

この結果から、質問項目⑦で「いつもしている」と回答した児童の割合は、30.2%から62.3%へと32.1ポイント上昇した。これは、地域素材への興味・関心が高まり、地域人材との交流を通して、児童が

主体的に情報収集したためだと考える。そして、地域人材から得た情報を基に、児童自らが地域教材の課題を見付け、自分自身と向き合っていて考えていく中で、自分らしい生き方を考えることができた。

以上のことから、自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通して「課題対応能力」が育まれたと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、児童にとって身近な地域素材を取り上げ、課題意識を明確にもたせて地域人材から情報収集させたことで、児童が自ら地域に対する課題を見付け、必要な情報を収集して課題を解決することができ、「課題対応能力」を育むことができることが分かった。その際、単元を通して振り返りシートを取り入れると、学習活動の振り返りや地域に対する思い等について自己との対話を促すことができ、地域教材に対する自己の変容に気付き、自己の考えを深めることに効果がある。

2 研究の課題

既存の地域教材を活用してキャリア教育を推進していくためには、本研究の取組を他学年にも汎用し、「課題発見・解決学習」を行っていく必要がある。また、振り返りシートについても、それぞれの学年で育成したい資質・能力に合わせたり、記述方法を工夫したりする等の改善が必要である。

【注】

- (1) 広島県教育委員会（平成29年）：『平成29年度広島県教育資料』p.102を基に稿者が作成した。
- (2) 堀哲夫（2013）：『教育評価の本質を問う一枚ポートフォリオ評価OPPA』東洋館出版社p.26に詳しい。

【引用文献】

- 1) 広島県教育委員会（平成29年）：『平成29年度広島県教育資料』p.101

【参考文献】

- 文部科学省（平成23年）：『小学校キャリア教育の手引き＜改訂版＞』教育出版
- 藤田晃之（2014）：『キャリア教育基礎論』実業之日本社
- 中央教育審議会（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
- 梶田勲一（2017）：『対話的な学び アクティブ・ラーニングの1つのキーポイント』金子書房
- 宮原修（2000）：『地域の人材・環境を生かす』ぎょうせい
- 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター（平成28年）：『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査』